

# 福島浜通りでの帰還を後押し コットンベルト実現化事業 STEP 3

活動地域  福島県

復興支援助成

3年目

実践

各圃場の平均反収	18 kg
首都圏での報告会参加者	71人
今年度計画の達成度	60%
目標達成度	100%



福島浜通りの今を知るエクスカーショ

## 苦勞した点と工夫した点

### ■ 苦勞した点

台風19号の直撃による畑の水没や株が倒れたりしたことで、収穫量が大幅に減少した。遠隔地での栽培の場合、台風被災後すぐに手を加えることができず修復できなかった。

### ■ 工夫した点

留学生向けの「福島浜通りの今を知るエクスカーショ」の企画の中に、いわき市内の大学で学ぶ留学生との交流を交えて教育的意味合いの濃い事業プランとした。

## 課題

帰還地での農業への不安、未帰還者のコミュニティとの繋がりが絶たれた疎外感、風評被害の存在。震災体験の風化は進むが、福島県浜通り地域に残る様々な原発事故の影響。

## 目標

帰還後の住民によるコットン栽培を通じて帰還を後押しする地域コミュニティの創出。コットン栽培が帰還しないことを決意した避難者と地域住民に新たな繋がりをもたらす。

## 活動内容と成果

- いわき市・双葉郡内8町村・南相馬市で栽培。帰還地では帰還住民並びに未帰還者54人と新規移住者4人、避難地では避難者18人が定期的に栽培に参加。しかし台風19号の直撃など気象条件が極端に悪く、平均反収は目標の30kg以上に対し18kgに留まった
- 首都圏の留学生向けの「福島浜通りの今を知るエクスカーショ」を実施。実施後に母語で情報発信
- 昨年度のコットンサミットの成果発表を首都圏でのプロジェクト報告会で実施。71人が参加。プロジェクト紹介DVDの英語版とHP上に英語ページを作成しグローバル発信に努めた



首都圏で開催するプロジェクト報告会



帰還地である富岡町での栽培風景

## 全助成期間の活動を振り返って

双葉郡内での栽培拡大を目指してきたが、規模の大小はあるものの8町村で栽培が継続されたことで、今年度で一応の成果を確認できたと考えている。気象条件が悪く実際の収穫量には結びつかなかったが、在来種の茶綿を有機農法で育てるという取組みに関わりを持つようとする人々が広域的につながり始めたことは評価していいと考える。また、都市農村交流事業としてのプランニングも当初の予定を大きく上回る成果を残すことができた。

〒971-8168  
 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6  
 電話：0246-52-2511  
 E-mail：the-people@email.plala.or.jp  
 HP：http://npo-thepeople.com/



## 今後の展望

双葉郡内で主体的な栽培を行う意欲のある団体と連携して事業のさらなる進展を目指したいと考えている。そのためには、ザ・ピープルが主導的な立場に居続けるよりも、関わる農業者や企業、団体が横並びでプロジェクトを支える組織を作り上げることがふさわしいのではないかと議論がプロジェクト内部で高まってきている。この辺りを検討して実際の動きを生み出すことが2020年度進められることになっている。